

本資料の構成

1. 本資料は、植物防疫法にもとづく隔離検疫を再検討するためと、植物防疫官の検疫上の資料として各種文献によりとりまとめたものである。
2. 対象ウイルスは外国に存在するものに重点をおいたが、一部は日本にあるものも含めた。
3. 収録した植物は、隔離対象植物が主として栄養繁殖を行う重要植物類であることから主にこれらに重点を置いた。
4. 種子伝染するウイルスについても一括掲載した。
5. 本文にとりあげたウイルス名の中には、慣例により病名を用いたものもある。この場合ウイルス名は別名の項に入れた。
6. 別名の中に一部 Holmes らの提唱する、2名法を記したものがあるが、現在これは学名としては正式に認められていない。
7. 参考文献は主要のものにとどめ、雑誌類については誌名およびその巻のみとした。
8. 巻末に寄主植物別のウイルス一覧表、ならびにウイルス名のみならず別名を含めて索引を付し、使用の便を図った。